

1 学生の受け入れ(在籍管理)①〔総合福祉学部〕

関連委員会	入試委員会、学生厚生委員会、学生相談センター
関連部署	入試課、アドミッションオフィス、学生サポートセンター
関連データ	<ul style="list-style-type: none"> ・学部・学科の志願者・合格者・入学者数の推移(表3〔※表12〕)…………… P.186 ・学部・学科の学生定員及び在籍学生数(表4〔※表13〕)…………… P.211 ・学部・学科の退学者数(表5〔※表14〕)…………… P.213

1 平成24年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 入学者については、定員以上の確保を目標として募集活動、入試を行う。
- (2) 退学、除籍者が増加傾向にあるので、できる限り歯止めをかけられるようにする。

2 具体的計画

PLAN

定員の1.2倍となるような入学者の確保を目標として取り組んだ。これまで以上にアドミッション活動を足を使うことでこまめに行い、オープンキャンパスで本学部のよさを知ってもらうような取り組みを行う。

従来の学生相談センター対応だけでなく、アドバイザーによる個別支援を充実させる。

3 取組状況

DO

前年まで同様に、AO入試と推薦入試で定員分を確保することを行った。ただし、一般入試が少し増加したことで、前年度より年内確保数は1割程度減少している。その結果、少しではあるが、全体のレベルを向上できた。オープンキャンパスの参加者からは、本キャンパスの雰囲気、特に学生の対応について好評が得られた。

アドバイザーによる支援に取り組んだが、十分な効果をもたらすことができなかった。結果的に学部としては4.93%という退学、除籍者となった。

4 点検・評価

CHECK

学科によってバラツキがあるものも、ほぼ1.2倍を確保することができた。社会福祉学科、実践心理学科ではAO入試の占める割合が少し減り、推薦入試が増えていることで評定平均が向上している。また、教育福祉学科については、相当数の入試倍率を出しており、今後ともこの傾向を維持できるようにしていきたい。(資料あり)

傾向として、2年次に退学者が増加するのが各学科共通していることがわかる。そのため1年次における指導がポイントになる。そのため、1年次における個別指導がポイントになるが、特に学ぶ意欲が高まらない、成績及び出席が芳しくない学生に対する指導を徹底する必要があるが、本年度においては十分にはできていないのが現状である。

5 次年度に向けた課題

ACTION

入学者数に関しては、現状を維持することが当面の目標となる。そうしたなかで、入学者の質の確保のためにも入学者の半分弱を占めるAO入試での取り組み、さらに一般入試の受験者数の増による質の向上を図る。

在籍管理においては、1年次の対応を課題としてアドバイザーによる個別的、継続的支援を確立させる。また、アドバイザーが空白の期間となる2年次においても、体系的な対応をできるように検討する。

以上

1 学生の受け入れ(在籍管理)② [コミュニティ政策学部]

関連委員会	入試委員会
関連部署	アドミッションオフィス
関連データ	・学部・学科の志願者・合格者・入学者数の推移(表3[※表12]) P.186

第1部

III 学部・研究科等による取組み

1 千葉キャンパス

1 平成24年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 方針としては、125名の入学定員を確保することを至上とする。
- (2) 入定確保のため、アドミッションオフィスと連絡を密にして可能なかぎり、募集活動に協力することを目標にする。
- (3) 中途退学者が比較的多い状況にあるため、それに歯止めをかけられるようにする。

2 具体的計画

PLAN

- * (1) (2) に対して
 具体的には、キャンパス単位でのオープンキャンパスや説明会等以外に、学部独自の説明会、出張授業、大学見学での模擬授業、さらには何らかのかたちでの教員による高校訪問など、全専任教員がかかわって活動に取り組む。
- * (3) に対して
 初動はアドバイザー、次の段階は学生相談センターが主として担当し、かつ両者が協力して対応する。

3 取組状況

DO

- * (1) (2) に対して
 キャンパス単位で実施している説明会、オープンキャンパス等は昨年同様滞りなく実施した。龍澤祭当日に学部独自の説明会を実施した。出張授業については、学部長の依頼に対してすべての教員が協力してくれた。高校単位の大学見学の際の模擬授業では、総合福祉学部長の了解のもと基本的に本学部教員の授業を実施した。教員による高校訪問は実現できなかった。
- * (3) に対して
 アドバイザーが1年生、3年生、4年生への対応を的確にしている。相談センターも従来どおりの対応を継続している。

4 点検・評価

CHECK

- * (1) (2) に対して
 キャンパス単位で実施しているオープンキャンパス、参加人数の伸び悩み減少がみられた。龍澤祭当日に実施した学部独自の説明会は、入場者の動線の把握と広報不足によりあまり活況とはいえなかった。出張授業については、アドミッションオフィスからの情報を受けた学部長が学部の若手・中堅の先生方に直接依頼する形式をとった。また、学部長も出張授業に行った。また、高校単位の大学見学の際の模擬授業では、学部長も参加して授業を担当した。教員による高校訪問は、あくまでも教育活動の一環として行う必要があるため、形態を熟慮する必要がある。
- * (3) に対して
 アドバイザーは、1年生のいわゆる無目的層の退学傾向に対しての対応に苦しんでいる。また2年生への対応の機会を確保することが十分でない。

* (1) (2) に対して

本学部は、学部設立時以来、基本的に全入体制となっている。したがって、選抜にかかわる検討ではなく、いかにして受験してもらうかと方策を考えることが肝要である。平成25年度入試は、マイナス9名の定員割れに終わった。アドミッションオフィスの活動に呼応した学部の動きがいっそう求められるといえる。とくに、今年度実施できなかった教員による高校訪問については、実施形態を研究するという課題が残っている。

* (3) に対して

在籍管理については、ひきつづきアドバイザーによる定期的、恒常的な学生把握に努めていく。
以上

1 学生の受け入れ(在籍管理)③〔総合福祉研究科〕

関連委員会	
関連部署	
関連データ	

第1部

III 学部・研究科等による取組み

1 千葉キャンパス

1 平成24年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

(1) 研究科入学(収容)定員の確保に向けた学生募集

2 具体的計画

PLAN

- (1) 入試説明会の開催、WEB等による研究科の教育・研究情報の提供
- (2) 入学希望者の研究計画等に対応する個別相談

3 取組状況

DO

- ・入試説明会 7月・12月開催、随時大学院事務室にて個別相談
- ・入学希望者に対する資料送付とQAを含む個別相談(含む教員の研究計画等の相談)

4 点検・評価

CHECK

- ・入学者(在籍者)については、年々減少傾向にあり、社会等の内外環境の変化を踏まえた教育課程・教員組織の編成を含め学生募集活動の検討が必要

5 次年度に向けた課題

ACTION

- ・WEBの見直し
- ・専門職(認定社会福祉士、臨床心理士、臨床発達心理士の各種資格)及び研究者養成に対応する教育課程の改訂と併せた学生募集の展開

入学状況

専攻・課程	入学定員	年度	志願者数	合格者数	入学者数	入定充足率	収容定員	在籍者数	収定充足率	備考
社会学専攻 博士後期課程	-	25	-	-	-	-	-	1	-	H21～ 募集停止
		24	-	-	-	-	-	1	-	
		23	-	-	-	-	-	2	-	
社会福祉学専攻 博士後期課程	5	25	1	1	1	0.20	15	13	0.86	
		24	2	2	2	0.40		16	1.06	
		23	3	1	1	0.20		20	1.33	
社会福祉学専攻 博士前期課程	15	25	5	5	4	0.26	30	8	0.26	
		24	3	3	3	0.20		15	0.50	
		23	11	8	8	0.53		8	0.26	
心理学専攻 修士課程	15	25	24	16	13	0.86	30	31	1.03	
		24	33	21	16	1.06		35	1.16	
		23	35	20	17	1.13		31	1.03	
研究科計	35	25	32	22	18	0.51	75	53	0.70	
		24	38	26	21	0.60		67	0.89	
		23	49	29	26	0.51		83	1.10	

在籍学生数・学位授与状況

専攻・課程	年度	1年次	2年次	3年次	計	学位授与
社会学専攻 博士後期課程	24	0	0	1	1	0
	23	0	0	2	2	0
	22	0	0	2	2	0
社会福祉学専攻 博士後期課程	24	2	4	10	16	1
	23	3	7	10	20	1
	22	9	7	7	23	2
社会福祉学専攻 博士前期課程	24	3	12		15	9
	23	8	11		19	6
	22	7	13		20	8
心理学専攻 修士課程	24	16	19		35	17
	23	17	19		36	17
	22	17	18		35	16
研究科計	24	21	35	11	67	27
	23	28	37	12	77	24
	22	33	38	9	80	26

以上

2 学生支援①〔共通〕

関連委員会	千葉キャンパス学生厚生委員会
関連部署	学生サポートセンター
関連データ	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金給付・貸与状況(表6〔※表15〕) …… P.215 ・学生相談室利用状況(表7〔※表16〕) …… P.219 ・学部・学科の退学者数(表5〔※表14〕) …… P.213 ・学生の国別国際交流 ・課外教育補助等(表17〔※付表5〕) …… P.239 ・課外活動報告

1 平成24年度活動方針・目標

ACTION PLAN

活動方針

(1) 学生厚生委員会業務のうち、特に学生の福利厚生面での充実を図る

目 標

- (1) サークルの活性化と加入者数を向上させる
- (2) 奨学金返還金額の増額
- (3) 建学の精神に則った学祭の運営
- (4) 課外講座の充実と参加者数の向上
- (5) 3年計画で、中途退学者を20%程度減らす
- (6) 外国人留学生・ブラジル研修生の指導充実

2 具体的計画

PLAN

目標に対しての取り組み

- (1) キャンパス内の元気度を高めるために、近年減少傾向にあるサークルの加入者数を増やし活性化を図る。
- (2) 奨学金返還金額の増額
 大学貸与奨学金の貸付は、毎年増加傾向にある一方、卒業後の返還が滞っている卒業生も多いため、返還方法や金額の見直しも含め、内容証明や督促など連絡を密にする。
- (3) 建学の精神に則った学祭の運営
 学園祭(龍澤祭)は、大学生の文化度を高め、大学の意気高揚を促す効果が期待されて、その成果も上がっているが、本学の建学の精神からかけ離れた意味不明のイベントも見受けられる。大学祭実行委員の学生達に、改めて学園祭の意義を確認させて、淑徳大学らしきイベントになるよう指導する。昨年からの指導を始めているが、より一層の充実を図る。
- (4) 課外講座の充実と参加者数の向上
 当面は、今年度の参加学生を10%向上させたい。
- (5) 学生相談業務
 学生の成績不良者は年々増加傾向にあり、中途退学者の数も見のがすことが出来ない現状である。学生相談センターの教職員だけでなく、アドバイザー教員やゼミ指導教員の応援を得て、3年計画で、中途退学者を20%程度減らしていきたい。
- (6) 外国人留学生・ブラジル研修生の指導充実
 外国人留学生に対する指導体制を整備するとともに、学生生活についても支援できる環境を整えていく。
 ブラジル研修生の参加希望者が年々減少傾向にある。学祖長谷川良信の足跡を尋ね、その精神を継承する上でも、この研修の意義は大きい。今年度の応募者は5名であったが、教職員の啓蒙活動を強化して、3年後にはせめて2倍程度の応募者を得たい。

1. 目標（1）に関して
 - ・年度末にリーダーズキャンプを実施し、各サークルの代表者に指導を実施した。
 - ・休暇中のサークル活動における注意喚起のガイダンスを行った。
 - ・年度初めにサークル加入への助言と勧誘機会を提供した。
 - ・大学祭におけるサークルの活動報告を義務化推進した。
2. 目標（2）に関して
 - ・各種奨学金の説明会を折に触れて実施。
 - ・新入生に対する奨学金の説明会を実施。
 - ・奨学金返還が滞っている卒業生に対する督促状の発送。
3. 目標（3）に関して
 - ・大学祭実行委員会との定期的な連絡会議を開催して指導を行った。
 - ・学生サポートセンターとの連携を義務づけて指導してきた。
4. 目標（4）に関して
 - ・課外講座の種類と開催日時、回数の調整を行い、学生に周知徹底を図った。
5. 目標（5）に関して
 - ・学生相談センターの担当教職員を増員した。
 - ・年4～5回の頻度で成績不良学生を呼び出し、面談指導を実施した。
 - ・連絡が取れない学生に対しては保護者へも通知して面談指導を実施した。
6. 目標（6）に関して
 - ・外国人留学生の指導管理業務が一部の教員の個人的な働きによって実施されている点を、制度的に改善した（次年度から実施される）。

4 点検・評価

CHECK

1. 目標（1）に関して
 - ・サークル加入数の減少傾向に歯止めが掛かっている。
 - ・今後更に環境面での支援を行って活動しやすい環境を整える必要がある。
2. 目標（2）に関して
 - ・やや改善の傾向が見られるが、奨学金受給者の増加に伴い、なお一層の指導が必要。
 - ・奨学金返還が滞っている卒業生に対する督促状の、一定の効果が認められた。
3. 目標（3）に関して
 - ・大学祭実行委員会との良好な連絡会議で、建学の精神に則った在り方へやや改善されてきた。
4. 目標（4）に関して
 - ・課外講座への参加者数は、やや改善された。
5. 目標（5）に関して
 - ・中途退学者の数は、未だ減少していない。
 - ・成績不良学生への面談指導は、呼び出しに応じた学生への一定の効果が認められた。
 - ・保護者への通知でも一定の効果が認められた。
6. 目標（6）に関して
 - ・次年度から、留学生担当教員が学生厚生委員に加わり指導体制が出来た。

5 次年度に向けた課題

ACTION

各目標に関して

学生厚生委員会における各業務内容の目標に関する達成度指標を作成して、ビジュアル的な振り返りが出来るようにしたい。

以上

2 学生支援 ②〔総合福祉学部〕

関連委員会	教務委員会
関連部署	学生サポートセンター
関連データ	・総合福祉学部・学科の授業科目

第1部

III 学部・研究科等による取組み

1 千葉キャンパス

1 平成24年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 学生の履修にかかる仕組みの理解を徹底させる。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 履修の手引きの構成・表記の見直しを行う。
- (2) 教務ガイダンス資料の見直しを行う。
- (3) 複数回の教務オリエンテーションを実施する。

3 取組状況

DO

- (1) 履修の手引きに各種情報を追加した。
- (2) 学生にわかりやすい表記にした。
- (3) 学期ごとに複数回のオリエンテーションを実施した。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 履修手引きのページ数増となった。ページ数204頁から206頁
- (2) 学科単位および課程単位にてオリエンテーションを実施した。
- (3) 履修モデル通りに履修登録ができない学生が出てきている。
- (4) 卒業困難学生への対応を強化する。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1) 履修規程等見直しを行う。
- (2) 履修モデルの修正を検討する。

以上

2 学生支援③〔コミュニティ政策学部〕

関連委員会	教学委員会（教務）
関連部署	学生サポートセンター
関連データ	・コミュニティ政策学部・学科の授業科目

1 平成24年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 学生の履修にかかる仕組みの理解を徹底させる。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 履修の手引きの構成・表記の見直しを行う。
- (2) 教務ガイダンス資料の見直しを行う。
- (3) 複数回の教務オリエンテーションを実施する。

3 取組状況

DO

- (1) 履修の手引きに各種情報を追加した。
- (2) 学生にわかりやすい表記にした。
- (3) 学期ごとに複数回のオリエンテーションを実施した。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 履修手引きのページ数増となった。ページ数100頁から102頁に。
- (2) 4月に2年生向けの、9月に1年生後学期向けの教務オリエンテーションを実施した。
- (3) 卒業単位の充足に対して不利となる履修選択をしてしまう学生がいることを確認した。
- (4) 卒業困難学生への対応を強化する。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1) 履修規程等の見直しを行う。
- (2) 完成年度以降のカリキュラム修正を検討する。

以上

2 学生支援④〔総合福祉研究科〕

関連委員会	専攻主任会議
関連部署	
関連データ	

1 平成24年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 院生の支援のため、奨学金の給付・貸与及び修学資金助成・募集情報の提供を行う。
- (2) 奨学金応募書類を基礎資料とし、面接（経済状況、研究活動を含む）を行い、奨学生の選考を行う。

2 具体的計画

PLAN

- ・奨学金の給付貸与及び修学資金助成募集情報は、掲示及び学内LANによる学生配布等を通じ提供（給付貸与等の応募書類、関係規程を含む）。
- ・院生の生活相談については、指導教員と事務室とが連携し対応。

3 取組状況

DO

- ・奨学金の給付貸与及び修学資金助成情報。
- ・奨学生については、日本学生支援機構の奨学生を含め、書類審査及び面接により、（院生の経済状況、研究活動や生活状況を含む）奨学生を選考している。
- ・特に優れた業績による返還免除（学生支援機構）については、規定に基づき選考している。

4 点検・評価

CHECK

- ・奨学金（給付貸与）や研究費助成が、学費負担及び生活や修学、研究の継続に欠かせない院生が多数存在し、修了後の要返済額（債務が）高額な院生も散見される。
- ・外部資金の獲得を含め、修学、研究資金の留保や債務返済に関する指導も必要。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- ・内外の修学、研究資金の申請や獲得に向けた助成情報のみならず、特に貸与奨学金（借入金）については、リスクや修了後の社会状況や個々の院生の返済計画（見込み）にも留意することが肝要。

以上

3 就業支援

関連委員会	キャリア支援センター
関連部署	キャリア支援センター事務室
関連データ	<ul style="list-style-type: none"> ・就職・大学院進学状況(表8〔※表17〕)……………P.220 ・大学院の就職等進路状況(表9〔※表18〕)… P.221 ・国家試験合格率(表10〔※表19〕)……………P.222 ・卒業生の進路 福祉・医療関係(表14〔※付表1〕)… P.227 ・卒業生の教員採用実績(表15〔※付表2〕)……………P.232 ・就職指導・支援行事等(表16〔※付表4〕)……………P.235 ・課外教育補助等(表17〔※付表5〕)……………P.239

1 平成24年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 社会人基礎力の養成を目的に積極的な就職支援(就職活動講座の開講や資格取得支援)を行う。
- (2) 学生の個性を尊重しつつ、就職活動に対する活動の持続性を図る。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 就職希望者の就職内定率90%以上を目指す。
- (2) キャリア教育の充実
 - ① 「社会人基礎力」育成の観点から、就職活動支援講座の見直しを行う。
 - ② カウンセリングの充実。
 - ③ インターンシップ先の新規開拓と指導の充実。
 - ④ 栄養学科創設にかかる新規開拓を行う。

3 取組状況

DO

1. 目標1.に対して

本学卒業生の活用

- ・就職ガイダンス等で積極活用し、より身近なところから説得力のある刺激を与える。

ゼミ担当教員との連携強化

- ・ゼミ時間を活用した「就活リスタートセミナー」開催(4年生対象)
- ・ゼミを通じた「就職活動状況調査」の実施(4年生対象年4回実施)
- ・ヒアリング(3・4年生ゼミ担当教員対象随時)

キャリア支援センター個別支援体制・支援施策の充実

- ・就職ハンドブックの配布
- ・数次キャリアフェスタの企画実施
- ・県内29大学主催の就職説明会の参加促進
- ・学生の活動状況に応じた各種就職支援セミナーの開催(リスタート等随時)

内定者の活用

- ・3年以下の学生に対する学生へのガイダンス招聘など

保護者への働きかけ

- ・保護者懇談会での保護者向け説明会の実施(10月)
- ・保護者向け、資格支援講座のDM配信

関係機関との連携強化

- ・ハローワークのジョブサポーターの配置(週1回)

インターンシップの充実

- ・授業のインターンシップと連携し、自由参加型インターンシップの充実

2. 目標2.に対して
キャリア教育の充実
 ・低学年から、働くことへの動機づけ講座を実施
 ・3年次生に対する就職活動講座の充実
 ・カウンセリングの充実（ゼミ出張講座等）
 ・インターンシップ先の新規開拓
 ・栄養学科の紹介と企業、施設開拓
資格取得支援講座の充実
 ・解説講座の見直し
 ・心理学科独自の資格支援講座の開設

4 点検・評価

CHECK

1. 目標1.に関して
 ・就職希望者の就職内定率 91.5%
 何とか90%以上の目標が達成できた。
 ・卒業生における就職内定率 76.2%
2. 目標2.に関して
 ・キャリアフェスタでの卒業生や内定獲得者の語りかけは説得力があって、学生の反応・態度も非常によかった。
 ・保護者向けセミナーを実施し、一定の評価を得られた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

1. 目標1.に関して
 課題：①就職講座委託先の見直し
 ②カウンセリングと就職活動講座の連携見直し
2. 目標2.に関して
 課題：①インターンシップにかかる事前事後指導の見直し
 ②キャリアカウンセラーが担当する就職活動講座の開講

以上